

I 研究の概要

1 研究主題

学校研究主題

主体的に考え、伝え合う子をめざして

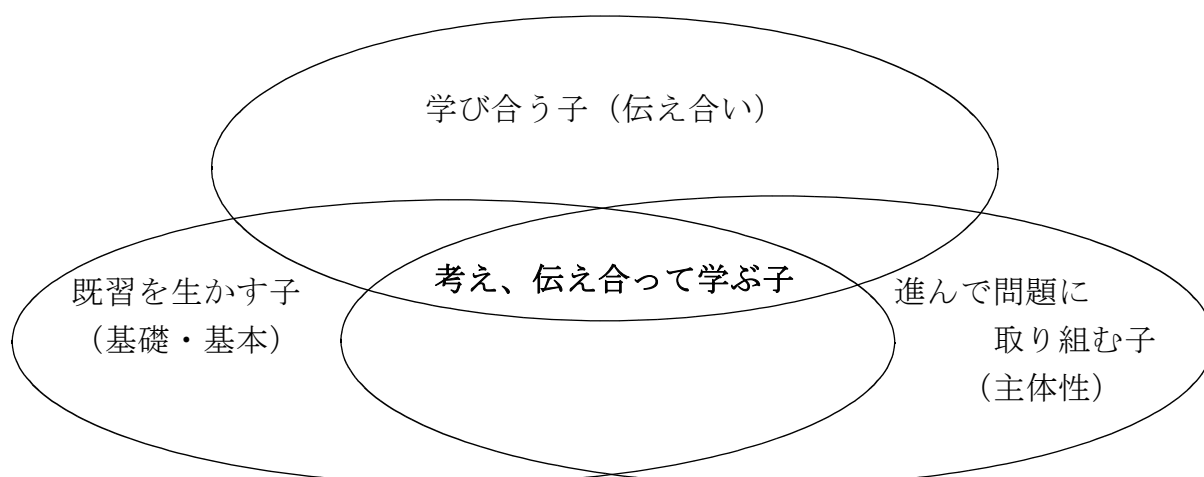
2 主題設定の理由

新指導要領の一般方針において、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす～」と記している。

本校では、これまで「自信と満足のある授業づくり」という研究主題を掲げ、自分の思いを表出しながら関わり合い、学び合おうとする子どもの育成を目指して研究に取り組んできた。その結果、本校の児童には、自ら問題を解決していかうとする主体性や、よりよい解決策を求めて積極的に互いの考えを伝え合う力が弱いことが分かった。

そこで、2年前より研究テーマを『主体的に考え、伝え合う子をめざして』とし、問題解決に向けて、進んで見たり、聞いたり、調べたりする主体性と「他に分かってもらいたい」「他を分かってくれたい」という情意を持ったよりよい伝え合いができる子の育成を目指し、研究を進めてきた。そして、児童一人一人が主体的に学習に取り組むための「課題を持つ場面」と、課題を解決するために「よりよく伝え合う場面」の二つに重点をおいて研究を進めてきた。昨年度は、研究を焦点化するため「よりよく伝え合う場面」に重点を絞って研究を継続してきた。その結果、自分の考えを持ち、進んでその考えを表出し伝えることはできるようになった。しかし、学習のねらいに迫るための「伝え合い」にはまだ不十分であった。そこで、今年度は、「よりよい考えをつくる伝え合い活動」に重点を置いて研究を進めていくことにした。

3 めざす子どもの姿



「主体的に考える」とは、問題に遭遇したとき、まず自らの力によって解決しようとする、学びを実践しようとする自ら考える姿である。つまり、

- ・ 今日とはどんな勉強をするのか考えている。
- ・ 問題について見通しを持つことができる。
- ・ 自分の考えをまとめ、発表しようとする。

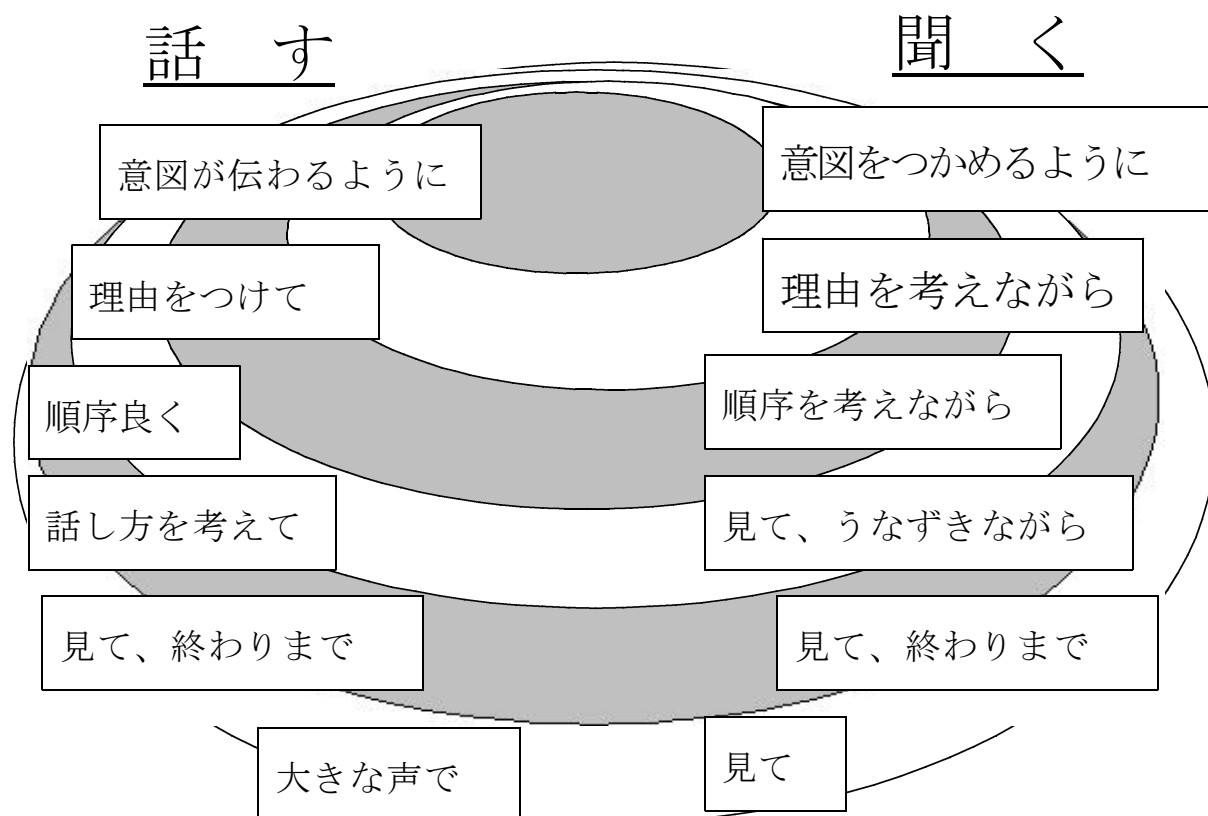
であり、学習時において興味・関心を持ってよく見たり、考えたりして、自分の考えをつくりあげようとすることである。さらに、自ら問題を見つけ、問題追究のために調べたり、既習を生かして考えたりしていくことでもある。

「伝え合う」とは、問題を解決するために真剣に互いの考えを聞き合い、話し合いをすることである。そして、他と自分の考えの違いや不足に気づき、より良く質の高い考えや方法を見つけていこうとすることである、と考える。もちろん、そのためには、他を思いやり尊重する気持ちが必要であることはいままでもない。そうすれば、心を開いて学ぼうとする姿勢も身に付く。この伝え合いの体験が広い視野と自分なりの価値観を持つことにつながり、生きてはたらく力や自信となっていくと考えられる。

また、「主体的に考え、伝え合う子」のための学びの基本は、「話す」「聞く」ことが身に付いてこそ達成できるものであると考える。そこで、学年ごとの目標を掲げて実践していくことが必至である。

【学びの基本の学年別目標】

	話す	聞く	話し合う
1年	はっきり聞こえる声で話すことができる	話し手の顔を見て、最後まで聞くことができる	尋ねられたことに対して答えたり、自分から進んで話したりすることができる
2年	聞き手の方を向いて最後まではっきり話すことができる	話し手の方を向いて、話の内容を聞き取ることができる	素直に自分の考えを表出し、友達の見解をやさしく受けとめることができる
3年	聞き手を意識して、自分の考えを表出することができる	話し手の方を見て、反応しながら聞くことができる	友達の見解と比べながら進んで話したり聞いたりすることができる
4年	聞き手を意識して、自分の考えを分かりやすく話すことができる	話し手と自分の考えと比べながら聞くことができる	友達の見解の相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる
5年	聞き手に理解してもらえるように、自分の考えに理由や根拠をつけて話すことができる	話し手の意図を考えながら聞くことができる	友達の見解と自分の考えを対比しながら、問題解決に向かって協力して話し合うことができる
6年	話の意図をはっきりさせて、自分の考えに理由や根拠をつけて話すことができる	話し手の意図をつかみながら聞くことができる	事象と感想、意見の関係を考えながら、問題解決に向かって話し合い、深めることができる



4 研究の重点

一昨年度は、「課題を持つ場面」と課題を解決するために「よりよく伝え合う場面」の二つに重点をおいて研究を進めてきた。その結果、児童に追究意欲をもって課題をつかませるには、既習事項を想起させたり、興味・関心を持つ活動（遊び）、資料提示、演示実験などをしたりして児童の思考に沿った課題作りをすることが大切であることが分かった。また、よりよい伝え合い活動にするために、話形表を活用して話し方の指導をしたり、学習形態を工夫したりして、伝え合いが活発になるような対処の仕方を考え実践することができた。

しかし、子ども達の実態をみると、基礎的な知識や技能が身につく、課題に対して自分の考えを持てる子は多くなったが、他に働きかけてよりよい解決策を見つけ出そうとする態度や他と共に積極的に学び合おうとする態度はまだ弱かった。そこで、昨年度は、重点を「よりよい考えをつくっていく伝え合い活動の充実」1つに絞り、どうすれば児童が主体的に学習に参加し、伝え合って学習を深めていくことができるかについて授業実践を通して研究してきた。その結果、自分の考えを持ち、進んで考えを表出し伝え合うことはできるようになった。しかし、一部の児童の話し合いであったり、ねらいに迫るための「伝え合い」にはまだ十分になっていなかったりした。

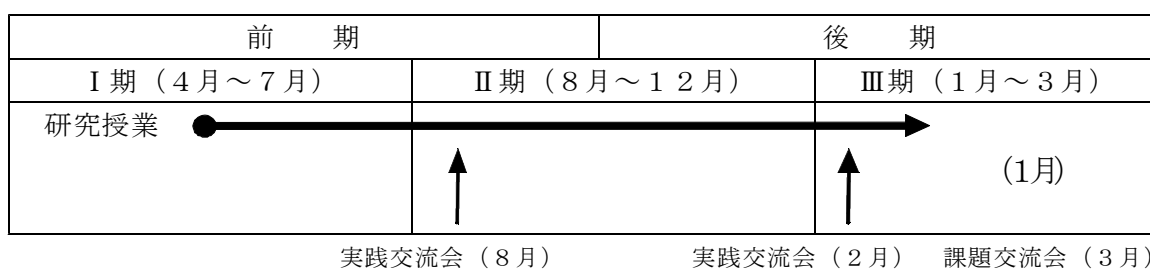
そこで、今年度は、重点を「全員参加で、よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実」とし、どのような手だてを取れば児童全員が主体的に学習に参加し、ねらいに迫るための伝え合いを展開することができるのかを授業実践を通して追究していくことにする。そして、その実践を通して「基本的な学習過程を基にした授業づくり」「ねらいに迫る表出活動」「評価と支援」のより一層の充実を図っていきたい。

今年度の重点

- ・ 全員参加で、よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実

5 研究の進め方

(1) 次のように研究授業と実践交流会を中心に各自の実践を交流し、共有化を図る。



- ①児童の実態をもとに、はっきりとしたねらいを持った授業実践が行えるよう教材研究を充実する。また、理想とする授業になるよう授業評価をもとに、授業改善していく。
- ②より確かなめざす児童像に迫れるよう、授業研究等を中心とした校内研究の活性化を図るとともに、研究会を充実し、教師の学習指導力の向上を図るよう努める。
- ③1年を3つの期間に区切り、到達目標、指導の重点を決め、計画的に実践できるよ

うにする。また、期間ごとに児童の姿や取り組みの総括を行い、効果的な指導のあり方を追究していく。

④児童の実態調査をもとに指導の成果や課題を明らかにし、授業改善や手だての工夫をしていく。

⑤学習全体研究会を通して授業の中での支援のあり方を探ったり、他の研修会で学んだことの情報交換会をしたりして指導力の向上が図れるようにする。

(2) 研修体制

①研究授業は、年1回とするが、

○ 授業力UPのため各学期1つ以上の単元を学年で教材分析し、授業を見合う機会を持つ。

○ 研究授業、新採の先生への公開など、年間3回は公開する。

(理想は、日常的に開かれた教室、高め合う学年集団を目指す。)

②若い先生方の財産を増やす。

③全教師が授業力を高め合う集団を目指していく。

④実践レポートは、年間3回作成する。(7月・12月・2月、2月はまとめとする)

・日々の授業の中で重点について取り組んだことで、児童がどのように変容したかを記述する。

ア. 重点についての具体的な取り組み

イ. 成果と課題(反省を踏まえての目標と手だて)

(3) 研究授業

①教職員全員(管理職・養護教諭以外)が研究授業を行う。外部講師を要請し、研究授業を行うが、学年研に関してはできるだけ招聘する。

②全体研一低・中・高学年から1人ずつ。全体研をしない学年は、分科研をする。

6 研究の内容

(1) 学び方の基本

「主体的に考え、伝え合う子」のための学びの基本は、「話す」「聞く」ことが身に付いてこそ達成できるものであると考える。そこで、学年ごとの目標を掲げて実践していく。その具現化のため、「話形表」や「聞き方モデル」学習の規律を「身につけたい5つの約束」の表で示し掲示し、毎日の学習に生かしていく。「5つの約束」については、7月・12月に教師側(高学年では児童も)がどこまで身についたかを評価する。また、児童の学習に対しての自己評価や教師に対しての評価として学習アンケートを実施する。そして、その結果をレポートとしてまとめ、低・中・高学年のブロック研究会の資料に利用し、その話し合いの中で、成果と課題を明らかにすると共に全教職員で共通理解して日々の授業研究に生かす。

【身につけたい5つの約束】

5つの約束	具体的な姿
①チャイムと同時に学習を始める	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムで着席している ・学習の準備ができています
②正しい姿勢で学習する	<ul style="list-style-type: none"> ・背筋が伸びている ・足が床に着いている
③話し合いのルールを守る	<ul style="list-style-type: none"> ・話している人を見て聞く ・最後までしっかり聞く ・場に応じた声の大きさと話す (グループで・クラスで)
④進んで学習に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に集中する(よそ見、手遊び、私語をしない) ・進んで挙手をして発言する ・ノートはていねいに書く(学年に応じて)
⑤学習のふり返しをする	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のふり返しをする(発言・ノート等で) ・片付けと次時の準備をする

【話形表】

<p>★はい、・・・です。</p> <p>★わたしは、・・・だと思います。その理由は、・・・です。</p> <p>★〇〇さん、もう一度言ってください。</p> <p>★〇〇さんに質問します。～は・・・ですか。</p> <p>★〇〇さんと同じで…。〇〇さんに付け加えて…。〇〇さんと違って…</p> <p>★初めは、～だと考えていたのですが、 〇〇さんの…から…だと考えが変わりました。</p>
--

【学習アンケート】

学習についてたずねます。

そうだと思いますら○、そうでないと思ったら×をつけてください。

質 問 項 目	○か×
わたしは、いつも問題（課題）について、いっしょうけんめい考えようとしています。	
わたしは、分からないことがあったり、できないことがあったりしたときは 友だちと教えあったり助けあったりしています。	
わたしは、思ったことや考えたことを発表しています。	
わたしは、クラスの友だちの意見をしっかりと聞いています。	
わたしは、学習に集中して取り組んでいます。	
わたしは、ノートやプリントをきちんと書いています。	
わたしは、授業が分かりやすいです。	
わたしは、黒板に書いてあることが、分かりやすいです。	
<p>どちらですか？あてはまる方に○をつけてください （ 授業は楽しいです ・ あまり楽しくありません ）</p> <p>そのわけは、何ですか。</p>	

（２）基礎・基本の定着

朝学習（毎日15分）や補充の時間（4年以上週45分）の充実を図ることで、漢字や語句の読み書きの習熟、計算力の定着を図る。また、読書や読み聞かせを充実させることによって、語い力・読解力を養い、見識を広めるようにする。

	月	火	水	木	金
1. 2年	国語・算数	国語・算数	読み聞かせ	国語・算数	読書
3～6年	国語・算数	英語	読書(読み聞かせ)	国語・算数	読書

※国語・算数…復習を中心としたプリントやドリル練習など。学年で、児童が自主的に進められるように準備、パターン化する。確かめの小テストも行う。

※読書……………静かな雰囲気の中で担任も一緒に読書する。読書カードを持たせ、記録することで意欲を喚起する。

(3) 認め合う学級づくり

「伝え合い」の基盤は、自分の思いを自由に話すことができる居心地のよい学級づくりである。そのため、今年度は6月と11月にQ・U調査を行い、児童一人一人の実態を把握すると共に居心地のよい学級づくり・やる気のある学級づくりに生かす。

(4) 授業研究

研究の重点を、「全員参加で、よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実」とし、ねらいに迫る「伝え合い」活動のあり方についての研究に取り組む。具体的には、

①全員参加の授業を組み立てる

ア. 全員挙手で授業をスタートする

児童全員に学習に取り組む姿勢を持たせると共に、学習とは自分達の考えを伝え合うことで学び合えるのだということを見童に意識させるため、授業の始まりは、事実問や既習のふり返り等の全員挙手で始める。

イ. クラス全員が伝え合いに参加できるように、学習課題に対して自分の考えを持たせるための手立て、その考えを表出させるための手立て、よりよい考えを追究させるための手立てが大切である。そこで、伝え合い(話し合い)の有効な手立てを意図的に組み、指導案の中に明記しながら実践していく。

②課題解決の基本的な学習過程を基に授業を構成する

子ども達は、課題を解決していく過程の中で、新たな知識の意味や概念を理解し身につけていく。したがって、子ども達が、学習内容をよりよく理解していくためには、自ら課題を解決していく学習過程が不可欠である。この学習過程を、「つかむ」「考える」「話し合う」「まとめる」の4段階を基本とし、授業に位置づける。教科や教材の特性、子ども達の実態を考慮し、子ども達が主体的に課題を追究していくことができる指導展開を研究していく。

③ねらいに迫る表出活動を取り入れる

ねらいに迫る表出活動とは、自分の思いや考えなどを話したり、書き表したり、聞いたり見たりすることによって、課題の解決策に気づいたり、理解をより深めたりすることができる活動である。各教科や各学年の特性に応じた、ねらいに迫るための有効な表出活動とその活用の仕方を研究する。

④評価と支援・指導を関連づけていく

子ども達が課題をつかんでも、課題に関係する知識や解決するための発想、観点などが不十分であっては自分なりの考えを持つことはできない。このような時には、適切な範例や基礎となる知識を示したり、教材や事象を新たな視点から捉えなおす具体的な活動や、自分とは異なる考え方を知る話し合い活動を取り入れたりして、解決の糸口を見つけさせていく教師の支援が必要となる。

また、子ども達が、課題の解決方法を見通し、考えていったとき、必ずしもそれが正しい方法であったり、よりよい方法であったりするとは限らない。この場合も、教師は適切に子ども達の解決状況を客観的な観点を持って適切に評価し、その評価に基づいて、よりよい方向づけや解決方法を見つけ出すための支援や指導を行わなければならない。授業のねらいを達成するためには、何を、どの場面でどのように評価し、どのような具体的な教師の働きかけで、子ども達が解決策を見出していくのかを追究していく。

(5) 授業力向上

学校研究の充実のためには、教師集団の授業力の向上が不可欠である。本校は、若い先生とベテランの先生の二つにはっきり分かれている。学年集団や教科集団で授業力向上のための手立てが必要である。そこで本年度は、研究授業だけでなく授業力向上につながる研修を取り入れていく。

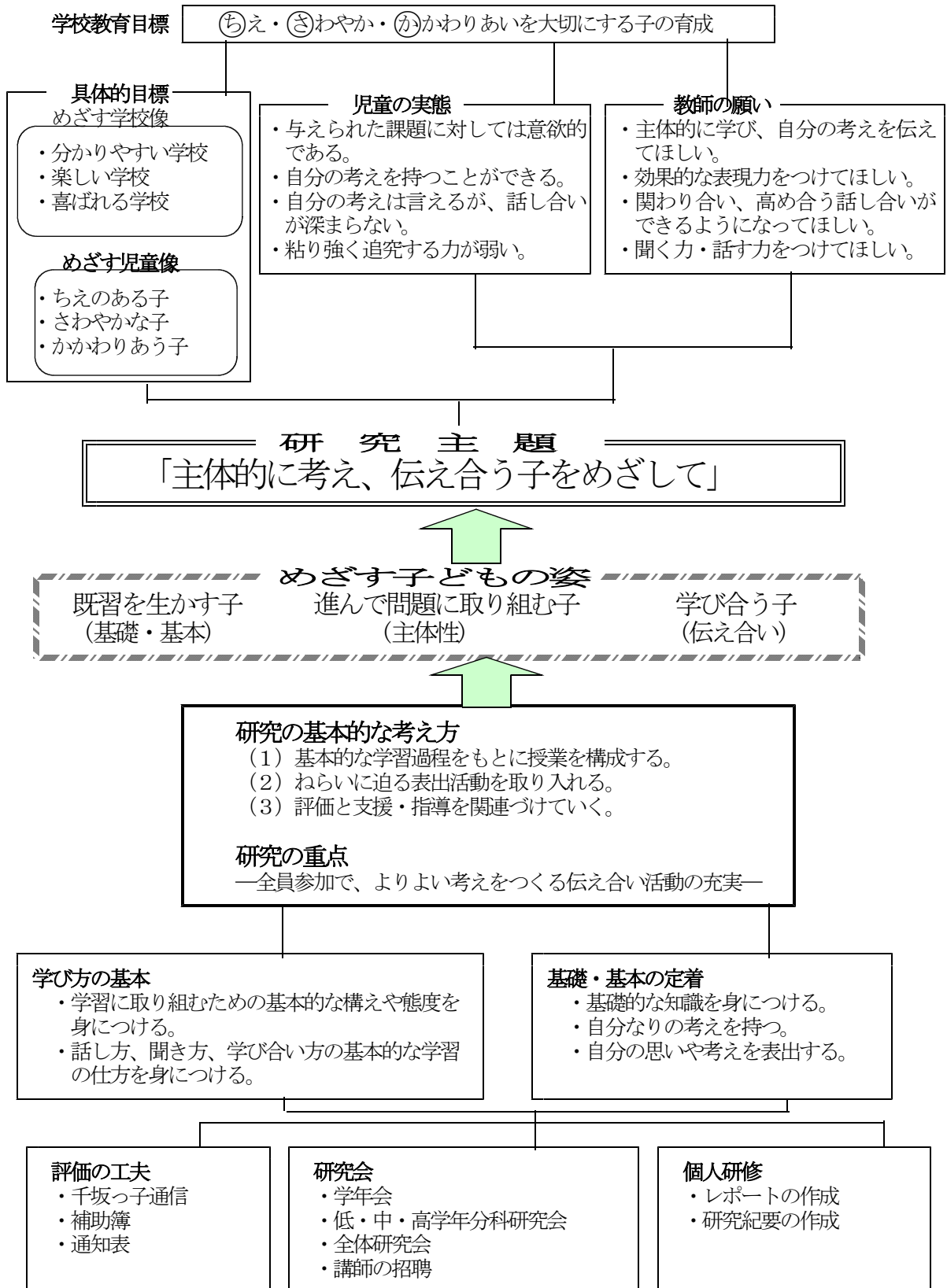
①授業を見合う週間

お互いに授業を見合い、アドバイスをしたり見習うことを習得したりする。気づいたことやためになったことなどを付箋に書く。

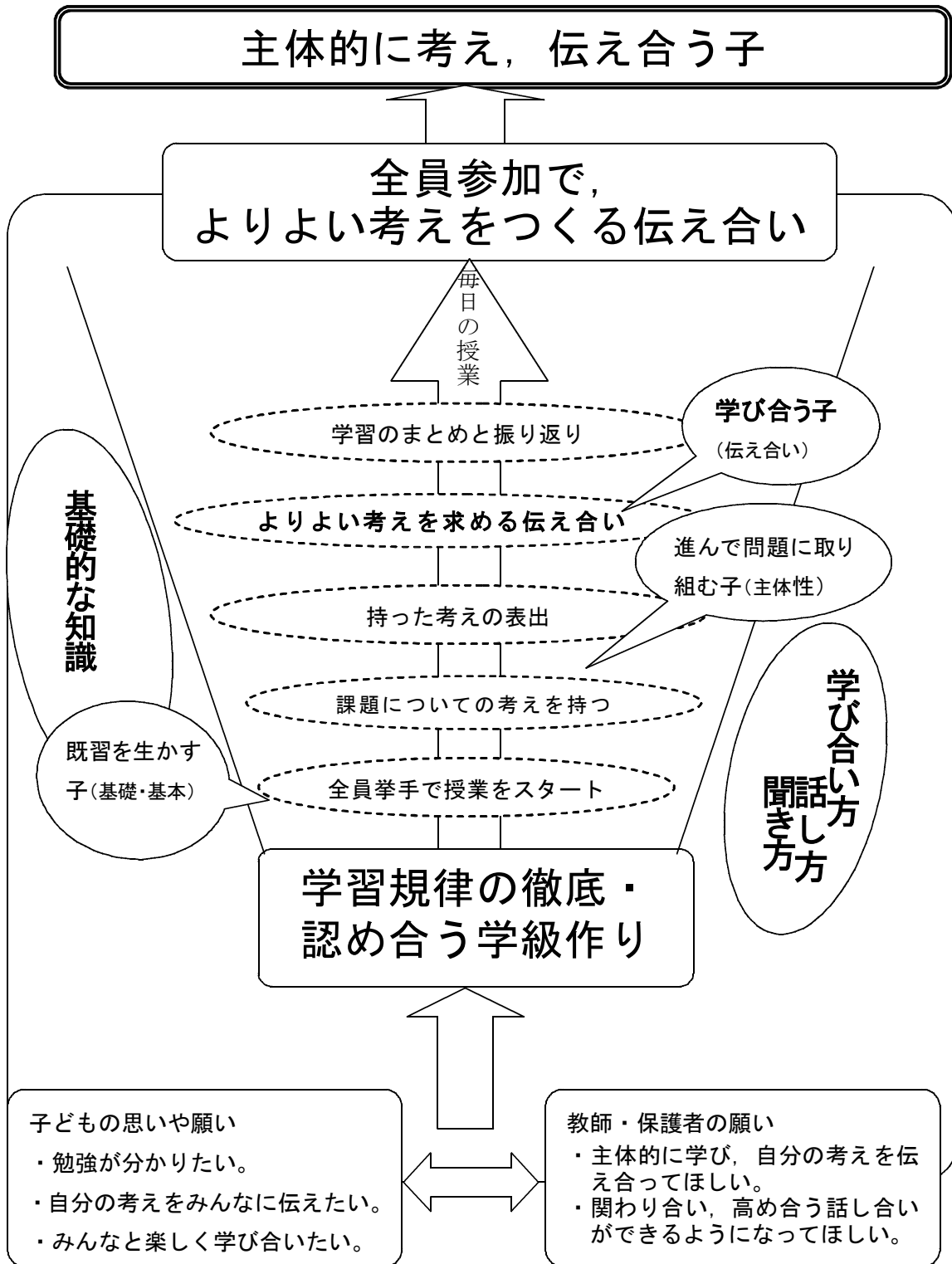
②実技研修の実施

体育や理科など技能を必要とする教科の指導方法や実技研修をすることによって、技能教科の専門的知識や指導力を伸ばす。

7 研究の全体構成図



8 学びのプロセス



9 研究の検証方法

- ★授業を見合い、重点についての手だてが適切であったか焦点を絞って話し合う。
- ★児童に「千坂っ子通信」で自己評価させたり、学習に関する児童の意識の変化を振り返るアンケートを7・12・2月末に行ったりする。
- ★アンケート結果を分析し課題を明らかにしたレポートを作成し、指導に生かしていく。

10 研究の経過

(1) テーマの設定理由と研究の方向の確認（4月）

4月の全体研究会で本年度の研究のテーマと方向性、重点について話し合った。そこで、昨年度は「よりよい考えをつくっていく伝え合いの充実」という重点を設けていたが、本年度は、重点を「全員参加で、よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実」とし、どのような手立てをとれば児童全員が主体的に学習に参加し、伝え合う中で学習を深めていくことができるかについて授業実践を通して研究していくことを確認した。また、学習の基盤である学習の規律や学習の基礎・基本をつけるための朝学習や教科の時間の持ち方についても共通理解をした。

(2) 研究授業（6月～1月）

3回ずつの全体研と低・中・高学年分科研、18回の学年研、計24回の研究授業を行い、22回の授業で外部講師（指導主事、他校の校長・教頭など）を要請した。事前研究会では重点についての手だてを中心に検討し、研究授業後の整理会では外部講師の方に適切なアドバイスを頂き、その後の授業に生かすことができた。また、全ての授業の整理会の内容は、ダイジェスト版として『研究通信』を発行することで参観できなかった職員にも知らせることができた。

(3) 実践交流会（8月・2月）

8月には実践交流会をもち、各クラスでの日々の取り組みをまとめたレポートをもとに話し合った。その結果、全校的な取り組みとして、9月以降以下の3点を実践することにした。

①授業の中で、書く場面を設定する。

（課題に対しての自分の考え、学習のまとめや振り返りなどで）

②ネームプレートを活用し、発表意欲を持たせる。

ア. 児童が、1日に1回は発表できるように意識を持って授業をする。

イ. 返事をする癖をつけていく必要がある。

③低・中・高学年分科会で共通理解した手だてを実行する。

低学年－話しやすい雰囲気作りをする。自分の言葉で話す機会を持つ。発声の仕方を反復練習する。我慢する心を育成する。

中学年－1時間に1度、隣同士で話し合う。

高学年－考えたくなる課題を設定する。

(4) 課題交流会（3月）

今年度の研究の成果と課題について、低・中・高学年分科会で話し合われたものを学習部会で集約し、課題交流会に提案し全体で協議した。その内容は、「Ⅲ 研究の成果と今後の課題」の中で明記する。